

地域で取り組む食育の推進～「食育月間」を利用した普及啓発の新たな試み～	
北多摩南部保健医療圏 多摩府中保健所	
実施年度	開始 平成20年度、 終了（予定） 平成22年度
背景	国民健康・栄養調査等の結果では、下記のとおり、国民の食習慣の改善意欲は低く、食育の認知度も低い状況にあり、肥満ややせの割合など改善すべき状況は拡大している。 17年国民健康・栄養調査では、10年前と比べ男性の肥満は増加し、一方で20～30歳代女性のやせは2割を占める。 17年国民健康・栄養調査において食習慣の改善の希望を聞いたところ、51.5%の者が「いいえ」と回答している。 19年度に管内でアンケート調査をしたところ、食育認知度は3.0%で内閣府調査結果の3.8%を下回った。
目標	地域住民の食習慣に直接影響を与えることができる事業者等との連携を強化することにより、食育の重要性を理解してもらい、普及啓発の取り組みを拡大し、個々の事業者の取り組みを地域全体のものへと発展させる。さらに普及啓発の推進を通じ、市民が自発的に食育を実践する意識と意欲が醸成される食環境を推進する。
事業内容	(1) 講習会の実施①平成20年7月7日「食育に係る最新情報」講師：独立行政法人国立健康・栄養研究所 餐場直美 氏 参加47名 ②平成21年3月12日「プロから学ぶ食品講座」講師：武蔵野食品衛生組合員、二葉栄養専門学校 萩原史朗 氏 参加84名 (2) 食育推進会議の開催①平成20年10月10日14名出席 ②平成21年1月26日12名出席 (3) 普及啓発媒体の作成①スローガンと食育月間入りマグネットステッカー460枚 ②スローガンと食育月間入りポスター4000枚 ③スローガンと月間、キャンペーン入りポスター4000枚 (4) アンケート調査 ①6市の公私立保育園、学校での地場やさいの活用等216施設実施状況 ②4会場の栄養展で食育認知度調査806名 ③大学生へ食育認知度調査100名 ④給食施設における食育月間中の食育活動の有無347施設 (5) イベントへの参加①平成20年6月14日小金井市食育推進シンポジウム ②平成20年6月28日府中元気一番まつり参加6800名 (6) 普及啓発の実施 ①6月の保健所ホームページ掲載 ②府中市晴見町商店組合ホームページ6月の掲載 ③食べもの暦に「6月食育月間」掲載
評価	(1) 講習会を2回実施した。2回目については、地域で食育を実施している関係団体（食品衛生協会、二葉栄養専門学校など）と連携しながら実施できた。 (2) 食育推進会議は、既存のネットワークを元に地域の食に関わる関係団体に参加を依頼し、設置することができた。食育キャンペーンについても検討できた。 (3) 食育推進会議においてスローガン等を決定し効果的な普及啓発媒体を作成した。車に貼るステッカーは、各市、団体等にも好評で5～6月に圏域内を走行することで、多くの住民の認識が深まると期待される。 (4) アンケート調査の①については調査結果を各市等へ報告した。また地場やさいの活用をとおして給食での食育活動につなげるよう提言した。 (5) 調布市環境フェア等他団体主催のイベントへ参加して普及啓発を行い、アンケート調査等も実施できた。
問い合わせ先	多摩府中保健所 生活環境安全課 保健栄養係 電話 042-362-2334（418・419） ファクシミリ 042-360-2144 E-mail Michiko-Fukui@member.metro.tokyo.jp

福祉関係者を対象とした結核予防対策の効果的展開	
北多摩南部保健医療圏 多摩府中保健所	
実施年度	開始 平成19年度、 終了 平成20年度
背景	当保健所管内の結核新登録患者は年間 200～250 名で、ここ数年は横ばい状態にある。その約三分の一が感染性の高い喀痰塗抹陽性患者である。さらに近年高齢者、住所不定者など診断に到るまでに多くの生活支援を受けている患者の発症が目立っており、それに伴い福祉関係者が接触していた事例が増えている。患者登録とともに関係者の接触者健診を実施しているが、実際に関係者が治療、予防内服が必要となった事例もある。患者支援の前提として感染予防対策が重要であり、講演会等を開催してきたところであるが感染予防の実践には十分とはいえない。効果的な普及啓発の在り方について検討、実施していくことを本事業の目的とする。
目標	1 在宅福祉サービス現場における結核感染予防対策の実態把握と課題の明確化 2 福祉職員が簡便に活用できる視聴覚教材の開発 3 視聴覚教材を活用した効果的な普及啓発のあり方の検討
事業内容	平成19年度 1 福祉関係者を含めた検討会を立ち上げ、3回開催 2 在宅福祉関係者・生活保護ケースワーカーに対する実態調査を実施 3 感染予防対策における課題の整理と具体策を検討 4 普及啓発教材としてDVD作成 平成20年度 1 福祉関係者を含めた検討会を立ち上げ、3回開催 2 昨年度作成したDVDを基にパンフレットを作成 3 教材を活用し、研修会を開催 4 福祉関係機関へDVD、パンフレットを配布 5 アンケートによるDVDの評価、視聴後の結核感染予防対策の変化について調査 6 福祉関係機関へ訪問による行動変容調査 7 アンケートによる事業評価のための調査
評価	・平成19年度の実態調査、福祉関係者の要望を基にして作成したDVDの評価は、わかりやすい95%、教材として適切83%と高い支持が得られ、結核の疾患についての正しい理解やN95マスクの必要性等の認識につながった。また、取り組みそうな結核予防対策として「N95マスクの用意・着用」、「面接時窓開け（換気）」、「咳をしている人へのマスク着用のお願い」等の回答があった。「今後DVDを活用したい」とする施設は78%であり、保健所の研修会参加施設では、DVDを用いた講習会やN95マスクの着用練習など主体的な職場内研修の開催につながった。 ・DVD配布後の行動変容については、①職場内研修会等の実施79%（活用予定17%を含むと96%が活用）、②結核予防対策の整備について平成19年度の調査と比較すると、施設責任者の回答では、普通のマスクの準備29→92%、N95マスクの準備0→21%、パンフレット等の整備3→31%、患者発生時の保健所等への相談39→44%、マニュアル作成36→69%とそれぞれ対策が進展した。③結核感染予防対策の実践について実務者の回答では、咳がある人へのマスクのお願い46%、自身のマスクの着用54%、N95マスクの準備33%、N95マスクの着用方法を知っている68%という結果であった。 ・福祉関係機関への結核予防対策の推進には、効果的な教材と研修会の実施という組み合わせによる事業展開が効果的であるとの結論が得られた。 ・本事業により福祉現場での結核感染予防対策は推進されたが、実践に向けた課題として「マスク着用」についての抵抗感が強く、実際の場面を想定した研修の実施や、マスクを着用しやすい環境を整えていく必要性が明らかになった。
問い合わせ先	多摩府中保健所 保健対策課 感染症対策係 電話 042-362-2334 ファクシミリ 042-360-2144 E-mail S0000348@section.metro.tokyo.jp

実施背景

高齢者、住所不定者からの結核発症
平成18年状況
新登録患者 209人
(内、塗抹陽性 69人)
※内、福祉サービス利用者 15人(9人)
生活保護受給者 11人(5人)

福祉職員の結核感染事例の散見
平成18年状況
生活保護CW
高齢者施設(介護士、ボランティア)
居宅サービス事業所(ヘルパー)

結核患者発生時の福祉現場での混乱・・・

- 1 サージカルマスクと、N95マスクを混同。
- 2 結核患者との接触直後、自身の家族への感染を心配する。
- 3 結核患者と接触後、心配ですぐにX線検査やツ反を受けてしまう。
- 4 結核患者の家族の健診が終わるまで、在宅サービスをストップしてしまう。

- ・福祉職員に結核についての正しい知識を持ってもらいたい
- ・咳のある利用者と接する際には予防対策をとってもらいたい

福祉職員に対する結核の感染予防の普及啓発が急務！

実施内容

事業概要	平成19年度	平成20年度
1 検討委員会 福祉関係者をメンバーに事業実施内容等検討	年3回 普及啓発教材の内容検討・DVD作成	年3回 作成したDVDの普及啓発・評価方法の検討
2 調査 地域の実態を把握・作成した教材の評価	福祉関係者の知識・予防対策の実態調査	・DVD視聴後調査 ・行動変容調査 ・事業評価調査
3 普及啓発 作成したDVD・パンフレットを活用		DVD・パンフレット配布 DVDを活用した研修会の実施 日本公衆衛生学会にて発表

在宅福祉サービス機関、職員に対する実態調査

1 調査目的

治療前の結核患者と接する可能性の高い福祉関係者の、結核の基礎知識、不安、予防対策などの実態を把握し、結核についての正しい知識を持ち、結核(疑い)患者と安心して接することができるための媒体作成と活用等、効果的な結核予防対策へ反映させる。

2 調査対象

在宅福祉関係者 責任者 113名
実務者 137名(6市生活保護CWを含む)

3 調査方法

郵送による自記式調査

4 調査期間

平成19年12月19日～平成20年1月18日

5 調査項目

- ・調査対象者の結核に関する基礎知識の状況
- ・感染予防対策の取組み状況
- ・結核対策について現場で役立つ教材 等

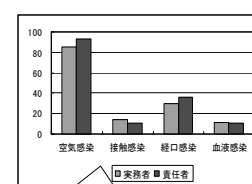
6 調査結果

調査票回収率

- ・責任者 調査票回収件数 59件(回収率 52.2%)
- ・実務者 調査票回収件数 85件(回収率 62.0%)

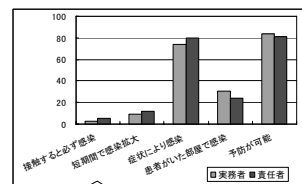
結核に関する基礎知識

図1 結核の感染経路は？(複数回答)



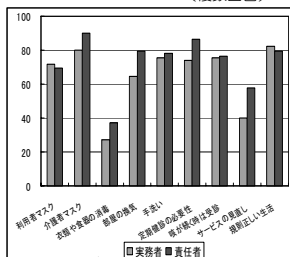
空気感染以外の回答も多い。感染経路についてどの程度認識されているのか疑問。

図2 結核の感染力は？(複数回答)



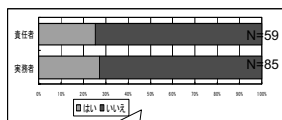
少数であるが、「接触すると必ず感染する」「短期間で感染拡大する」としている者あり。

図3 結核の予防対策で有効なのは？(複数回答)



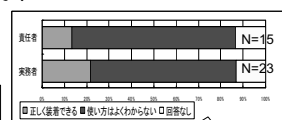
「利用者のマスク」は7割以下、「衣類や食器の消毒」を必要としている者が約4割であった。感染予防対策の正しい知識が必要。

図4 マスクN95を知っていますか？



N95マスクは知られていない。

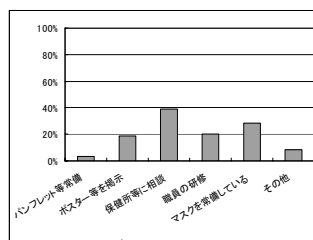
図5 (「知っている」とした回答者) N95マスクの使い方を知っていますか？



知っている、使い方を知らない。

施設責任者に対する質問

図8 日常の結核対策の取り組み(複数回答可)



結核対策の取組みは低い。特に、パンフレット等を常備は2事業所のみ、ポスター掲示、研修は2割であった。

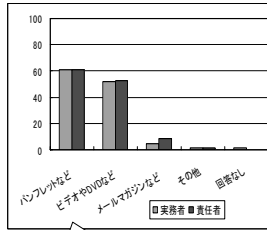
左記回答で常備しているマスクの種類

N=59		
	回答数	パーセント
N95マスク	0	0.0%
それ以外のマスク	17	100.0%
合計	17	100.0%

N95マスク常備なし！

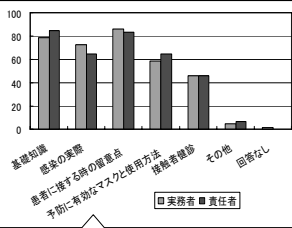
結核に関する教材の希望

図9 結核対策の教材について



ビデオ、DVDの他に、手元においていつでも見ることができるパンフレット等が望まれている。

図10 希望するDVDの内容



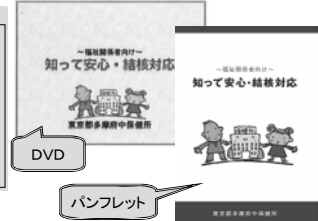
内容としては基礎知識が一番多いが、感染予防に関すること、特に患者と接触する時にどのようなことに注意すればよいのか等も希望する内容として多かった。

普及啓発教材の作成

～ 福祉関係者向け結核予防対策 DVD・パンフレット ～

知って安心・結核対応：目次

- こんな人はいませんか？
- 結核の現状
- 結核の基礎知識
- N95マスクとは
- 「咳のある人」との接し方
- 面接の時 受診介助の時
- 接触者健診



※マスクの装着方法、咳があり結核が疑われるサービス利用者の方との面接場面や、受診介助の際の予防方法について、動画でわかりやすく学ぶことができます。
(DVDは保健所で貸し出しをしています。パンフレットは保健所のホームページからダウンロードできます。)

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/tamafuchu/kansen/kekaku/yobodvd/index.html>

～ 福祉関係者向け結核予防対策 研修会 ～



こんな感じかな…

平成20年6月16日
責任者 60名参加

～学んだ事 (意見交換から抜粋)～

主治医、保健所など公的機関の協力を得て密な連携を図っていく必要がある。
咳をする利用者がいた場合のマスク装着の必要性を学んだ。
現場で、勉強会など、知識が得られる機会があるとよい。
対応マニュアルの作成が必要で、共有が重要

DVD視聴後調査

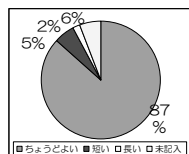
- 調査目的** 配布したDVD媒体の評価
- 調査対象** 在宅福祉関係者 責任者 153名 (管内宿泊施設管理者を含む)
実務者 765名 (1施設5名分配布)
- 調査方法** 1 平成20年6月16日 (月) 責任者対象の研修会参加者
2 上記の各施設の実務者5名
※ 研修会不参加の施設には、DVDと調査票を郵送
- 調査期間** 平成20年6月16日～8月29日
- 調査項目**
 - 作成したDVD自体の評価 (内容、時間、教材として適当か等)
 - 結核予防に関する知識の理解促進状況
 - 今後取り組みそうな結核予防対策
 - 今後のDVDの活用について
- 調査結果** 調査票回収率
 - 責任者 調査票回収件数 85件 (回収率 55.6%)
 - 実務者 調査票回収件数 280件 (回収率 36.6%)

DVDのわかりやすさ

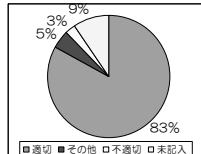
実務者 N=280

	わかりやすい・どちらかというわかりやすい	わかりにくい・どちらかというわかりにくい	未記入
文字	267 95.4%	9 3.2%	4 1.4%
色使い	268 95.7%	8 2.9%	4 1.4%
ナレーション	266 95.0%	9 3.2%	5 1.8%
画面の切り替え	272 97.1%	4 1.4%	4 1.4%

時間



教材としての適切さ



DVDを見て理解できたこと

N=85

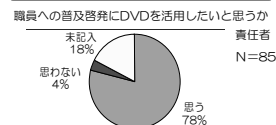
N=280

質問項目 ※上位7項目	責任者 (%)	実務者 (%)
感染者のうち発病するのは10人に1人	21.2	77.6
N95マスク装着時は空気がもれていないか確認する	23.5	75.3
結核疑いの人は普通のマスク、接する人はN95マスク	23.5	74.1
発病しやすいのは感染後半年から2年間	29.4	68.2
感染予防にはN95マスクが有効	32.9	64.7
結核患者が使用した布団・食器の消毒は必要ない	35.3	61.2
接触者健診には適切な時期と検査方法がある	34.1	60.0

今後取り組みそうな結核予防対策

- ・N95マスクの用意
- ・咳のある人と面接する際に換気をする
- ・咳のある人へのマスクのお願い
- ・咳のある人と接するときN95マスク装着

今後のDVDの活用について



DVD視聴により、結核の基礎知識・感染予防方法については理解され、現場でDVDを活用した研修の実施やN95マスクの用意・装着への必要性が意識化された。

今後の取組

DVDにより、意識化された結核予防対策がその後、実践につながったのか、現場での聞き取り調査（行動変容調査）等により評価し、課題を明らかにしていく。

- ① 施設への訪問による行動変容調査
- ② 事業評価のための調査

施設への訪問による行動変容調査

- 1 調査目的 DVD配布後の結核感染予防対策の変化を把握する
- 2 調査方法 質的調査
(保健師2名で施設を訪問し、責任者と実務者に聞き取りを行う)
- 3 調査対象 6月実施の研修会に参加した居宅介護支援事業所等をランダムに抽出(6ヶ所)
地域包括支援センター：1ヶ所
居宅介護支援事業所：3ヶ所
訪問介護事業所：1ヶ所
市役所地域福祉課生活福祉係：1ヶ所
- 4 調査期間 平成20年10月中旬～11月上旬
- 5 調査項目 責任者：DVDの視聴状況、施設内での研修会の実施、マスクの準備、対応マニュアルの作成状況等について
実務者：DVDの視聴状況、利用者へマスクの装着のお願い状況、面接時の換気の状況、実務者自身のN95マスクの装着状況等について

DVD視聴後の変化

利用者の咳は気になるようになった。長く続いているときは受診を勧めるようになった。

面接時など職員もN95マスクを着用する必要があるということを初めて知った。

過去の病気と思っていたが、認識を新たにすることができた。

高齢者は結核について不安が強い。治る病気なんだと伝えていく必要があると感じる。

自分自身が咳をしていると、マスクをするようになった。(咳エチケットを気にするようになった。)

結核は高齢者だけでなく、若者にも多いと知り、身近なものに感じられた。

「咳エチケット」の考え方が地域に浸透すると、マスクも着用しやすくなるのになあ...

行動変容調査から見たこと及び課題

課題1 N95マスク準備への障壁

- a.価格 b.利用者への遠慮・抵抗感
必要性は認識しているが、準備は十分ではない

課題2 感染予防対策実施への障壁

- ①換気について
a.利用者への遠慮 b.施設構造上の問題
②ふつうのマスク装着のお願いについて
a.利用者への遠慮 b.職員側のスキル c.利用者側の状況
③N95マスクの装着について
a.高価 b.利用者への遠慮・抵抗感 c.情報不足
予防対策の必要性はわかるが、実践できていない
“利用者への遠慮”が意見として多く挙げられていた

課題3 咳エチケットの普及

マスクの利用に関しては、利用者と職員側双方の理解が必要

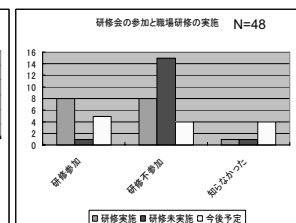
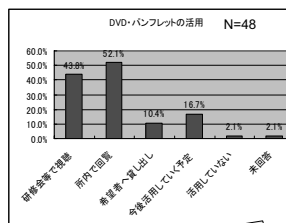
事業評価のための調査

- 1 調査目的 DVD等の活用状況、結核感染予防対策の知識獲得が実際の行動変容にどのようにつながったか等、その実態を把握して事業評価を行うと共に今後の取組の課題を明らかにしていく。
- 2 調査対象 在宅福祉関係者：責任者133名、実務者266名（6市生活保護CWを含む）
- 3 調査方法 郵送による自記式調査
- 4 調査期間 平成20年12月18日～平成21年1月9日
- 5 調査項目
 - ・DVD、パンフレットの活用状況と結核患者の対応についての不安の軽減
 - ・健康観察、マスクの装着や換気など、実際の対応の行動変化・課題について
 - ・感染症対応マニュアルの整備状況など、結核感染予防対策の実態について
 - ・今後の結核対策の課題と保健所への要望

6 調査結果

- 調査票回収率
・責任者 調査票回収件数：65件(回収率48.9%)
・実務者 調査票回収件数：115件(回収率43.2%)

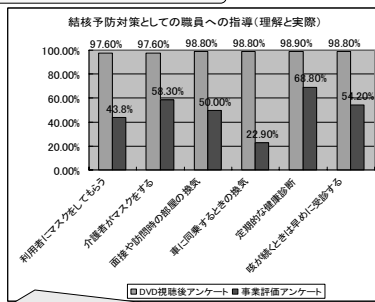
DVD・パンフレットの活用について



保健所の研修会に参加したグループは所属施設内での研修会等の実施に繋がっている。約80%の施設で何らかの形でDVD、パンフレットが活用されている状況。

結核感染予防対策の整備について

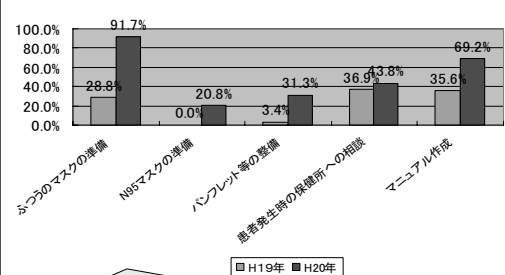
施設責任者の回答から・・・



保健所研修会直後のDVD視聴後のアンケートでは予防対策についてマスクの着用、換気の必要性、定期的な健康診断、有症状時の早期受診等90%以上の方が理解している。また各項目について70～90%が今後取り組んでいくと答えているが、実際の指導までには至っていない状況である。

結核感染予防対策の整備について

結核感染予防対策の取り組み

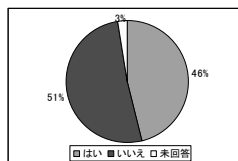


普通のマスクの準備は進んでいる。N95マスクの準備は少しずつだが、準備する施設が増えてきている。パンフレットの整備、マニュアル作成、保健所への相談についても取組は進展している。

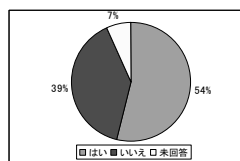
結核感染予防対策の実践について

実務者の回答から・・・

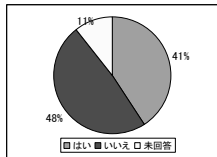
咳のある利用者にマスクをお願い



咳のある利用者に接するときのマスクの着用



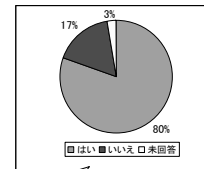
咳のある利用者との面談時や車同乗時の換気



必要性は解っているが実践できているのは40～50%。

結核予防を意識した健康観察の実施

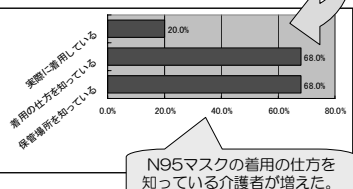
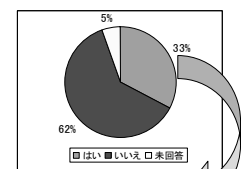
N=76



「利用者が咳をしていると気になるようになった。」「DVDを見てから意識するようになった。」という回答あり。

N95マスクの準備

N=76



N95マスクの着用の仕方を知っている介護者が増えた。

なぜ、実践できないのか？

実務者の回答から・・・

どのように声をかけていいかわからない。

咳のある利用者へのマスクのお願い

気分を害するのではと声をかけにくい。

利用者、介護者ともにマスクへの抵抗感がある。

咳のある利用者に接するときのマスクの着用

自分が風邪を引いていると勘違いされたり、会話が聞取りにくい。

利用者に失礼にあたる。

咳のある利用者との面談時や車同乗時の換気

気温を優先してしまう。

マスクをして対応しているので大丈夫かと思う。

まとめ1

まとめと今後の課題

- 1 実態調査、福祉関係者の要望を基にして作成した、施設内研修向けのDVDは、高い評価が得られた。
- 2 DVD視聴により、結核の基礎知識の正しい理解やN95マスクの必要性等の認識に繋がった。
- 3 保健所で実施した、「サービス提供責任者向け研修会」への参加施設では、主体的な施設内研修につながった。

福祉関係機関への結核感染予防対策の推進には、施設内研修を意識した、効果的な教材と研修会の実施による事業展開が効果的であるとの結論が得られた。

まとめ2

- 1 本事業により、福祉現場での結核感染予防対策は推進されたが、実践するには介護者の「マスク着用」に対する抵抗感が強いことがわかった。
- 2 結核予防における利用者等への対応について、不安がある、自信がない等の意見が多い。

- 1 現場での実践に向け、実際の場面を想定したロールプレイ等を取り入れた研修会を実施していく。
- 2 結核予防に必要な「マスク」についての抵抗感をなくすため、「咳エチケット」の普及を強化していく等、着用しやすい環境を整えていく必要がある。